

非参与観察を用いたフィールドノーツの例

1 事前準備

これはフィールドワーク直後に書いたフィールドノーツを清書したものである。フィールドワークで実践したことを順を追って示す。

調査実施日は2011年11月15日である。当初は別の街を調査する予定であったが、コミュニティとセキュリティの2つのテーマにつながる緑園都市を選ぶ。ウェブで閲覧可能なRCAの会報（『RCAだより』）と自治会連合会の会報を緑園都市までの道のりで読むことにする。11:48に自宅の最寄り駅を出発し、緑園都市のひとつ前の駅である南万騎が原に13:29に到着。緑園都市地域は大きいので北端に隣接する南万騎が原から歩く。

2 邸宅街とセキュリティ

緑園7丁目に入ると並木道が整備され瀟洒な住宅が現れる（写真1）。緑園都市の最東端は公園とゴルフ場に隣接していて、高級な住宅が建ち並ぶ（写真2）。カメラを向けにくい雰囲気。止まっている外車ばかりで家も広い。一説には、相鉄の緑園都市開発は東急の多摩田園都市開発に対抗して行われたものとされているが、この邸宅街はたまプラーザや宮崎台などの高級住宅街に近いものなのかもしれない。この地区の町内会の掲示板には「私服警察官重点パトロール地区です!」と書かれた注意書きが貼られていた（写真3）。中国語とポルトガル語（?）が併記されていた。



↑写真1：住宅街の並木道



↑写真2：邸宅街（の石垣）



↑写真3：緑園7丁目の掲示板

3 パトロールとの遭遇

緑園5丁目の小学校脇を通り、戸塚区名瀬町方面へ。住宅街の高低差を撮影しようとカメラを取り出すが、「コンフォート24」という警備会社のパトロールカーと遭遇する。あわててカメラをポケットにしまう。法的には何らやましいところはないのだが、カメラを隠してしまう。そこから数分間、警備会社のパトカーが後をつけているのではないかと、車の音が気になりだす。結局、警備会社のパトカーに遭遇することはなかったが、パトカーを怖れる気持ちが身体化されているとつくづく感じた。

その後、区界でカメラ撮影をした直後、今度は地域パトロールをして歩いている人に遭遇する。普通に歩いているだけだったが、肩掛けのバッグのヒモのところに「パトロール」と書かれた腕章が巻かれていた。正しくは「ロール」の部分しか見えなかったのだが。緑園都市ではボランティアで防犯活動が行われているの警戒レベルは相当高い。警戒レベルの高さは「防犯パトロール実施中」および「緑園防犯パトロール巡回地区」と書かれたのぼりが地域の至る所に掲げられていることにも現れている（写真4、5）。



↑写真4：至る所にあるのぼりとひったくり注意の立て看板



↑写真5：連合自治会ののぼり

続いて、駅へ。駅周辺はスーパーマーケット等商業施設がいくつかあり、「コンフォート24」警備事務所がある。また、RCAの事務所もそこにあるのだという。事務所前にはパトカーが2台、「相鉄企業」と書かれている（写真6）。事務所前にある掲示板を撮影していたら、パトカーから降りてきたらしい警備員が2名来て、「こんにちは」とあいさつされる。「こんにちは」と返事をする。それ以上の会話はない。怪しまれたかもしれないが、調査しにきた人としてふるまう。



↑写真6：コンフォート24の警備事務所とパト

2.4 緑園都市の道路計画とサイン

緑園1丁目から西へ進む。アップダウンが激しいが、街並はきれい（写真7）。緑園都市と隣接する新橋地区との境界へ向かう。このあたりになると古い家やトタン屋根の家、市営住宅が増えてくる。道路が南北に区画整理されているのが緑園都市で、新橋地区はスプロール状に住宅街が形成されていて、道路がくねくねとしている。緑園都市のはずれに通っている瀬谷柏尾道路の沿道には工場やスナックなどがあつた（写真8）。街並は一変。古い地区と新しい地区がはっきり分かれている。



↑写真7：緑園1丁目のきれいな街並



↑写真8：新橋地区、瀬谷柏尾道路

新橋地区にも「防犯パトロール実施中」と書かれたのぼりがいくつもあつたが、町内会の掲示板には緑園都市地区に見られた防犯に関する掲示はない。掲示されている情報数も少ない。緑園都市地区ではコミュニティ協会だけでなく自治会連合会もさかんで両者の情報が掲示されているため、情報が充実しているようだ。

緑園3丁目地区もまた景観が整っている地区である（写真9）。ここにはクルドサックがある（写真10）。クルドサックとは自動車が通過交通できない仕組みのことで、住宅街に不要な自動車が入ってくるのを防ぐ効果があるとされている。緑園都市ではこのクルドサックがひとつのウリになっているのだが、採用されている箇所はほんの一部にとどまっている。地区のなかには「住宅地域内につき、通り抜け禁止」と書かれた立て看板を掲げているところもあつた。「防犯パトロール実施中」や「通り抜け禁止」の他にも「変質者注意」など注意を喚起するサインが多数あるのが緑園都市の特徴である。



↑写真9：緑園3丁目交差点から住宅街を望む



↑写真10：自動車が通行できない歩行者専用通路

2.5 2つのマンション群

最後に、緑園4丁目のマンション群へ。1988年に竣工した「サン・ステージ緑園都市」は17棟あり、全棟14階建てである。4丁目は緑園都市全体の3分の1を占める5000人あまりが住んでいる。「サン・ステージ緑園都市」は道路を挟んで「西の街」と「東の街」に分かれている。「西の街」は木が生い茂り、やや暗い雰囲気であるが、防犯カメラがマンション全体の入り口と広場、マンションの出入り口に設置されている（写真11）。『RCAだより』2010年10月号によると、自転車が盗まれる被害や空き巣被害、大きな事件につながりかねない未遂事件といった被害があるという現状から、2010年5月の総会で防犯カメラの導入が決定されたようである³⁾。

一方、「東の街」は公開空地に指定されているため、マンションの建物以外は出入り自由とされている（写真12）。「西の街」に比べて、明るい印象であり、噴水広場が設けられている。防犯カメラは見当たらず、防犯に関するサインも特にない。ただし、駐車場入口に限っては厳重である。マンション入り口にはコミュニティセンターという立派な建物が建っている。緑園都市ではサークル活動が盛んなようだが、ここはおそらくそうした住民活動の基盤となっているのであろう（写真13）。



↑写真11：マンション内防犯カメラ



↑写真12：「東の街」入口



↑写真13：コミュニティセンター